

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

誠之中学校区

校番21

福山市立箕島小学校

最終更新日

2026年（令和8年）2月10日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
 日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	主体性			
分析データをもとに、授業改善に向け、校区で取り組んでいることが伺える。 教職員が一層やりがいを持ち、児童生徒個々の学習意欲を醸成できるような更なる取り組みを期待する。	・地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。 ・相手意識を持った行動が不十分。 ・学びへの意欲が低い児童生徒が一定数いる。 ・長欠児童生徒の割合が高い。	知識・技能 思考力・判断力 表現力 自立・共生	知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒			
		中学校区として統一した取組等	研究主題：自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGs：11 住み続けられるまちづくり			

III 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力		主体性			
チーム「み」「の」「し」「ま」 Challenge & Smile ～「み」んなで育ちあい 「の」びのび学びあい 「信」頼しあい 「ま」なざしを共有しあい～ 相手を想い 協働して解決に挑む				知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
学校教育目標		めざす 子ども像	低学年	○知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。	○自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。	○自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。	○自分の考えを持つことができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
自ら伸びる子どもの育成			中学年	○目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで、活用することができる。	○自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	○自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。	○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
現 状			高学年	○多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結びつけて活用することができる。	○自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。	○相手や目的に応じて自分の考えや意見を、三角ロジックを活用して説得することができるように伝えることができる。	○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
＜児童生徒＞		研究	テーマ	意欲的な学びの創造			
・学習において、「選択すること」「対話しながら学ぶこと」「追究すること」の意識が高い。 ・日常的に異学年交流が活発で、上級生が中心となり活動を工夫したり、下級生をリードしたりしている。 ・地域の協力を得ながら教育活動を進めている。児童も地域行事に積極的に参加している。			内容等	～自分の考えを適切に「表現する」、友達のことを「受けとめる」子どもの育成をめざして～ ・子ども一人一人が自分の考えたことを伝えるために「表現したい」、友達がどうしてそう考えたのかを「聴きたい」という思いが生まれる授業、子どもが意欲的に学びに向かい、学ぶことを楽しんでいる授業を目指す。			
＜授業＞		めざす授業の姿		・子ども一人ひとりが、自分の考えたことを伝えるために「表現したい」、友達がどうしてそう考えたのか「聴きたい」という思いが生まれる授業 ・子どもが意欲的に学びに向かい、探究的な学びが生まれる授業 ・子どもが学び合い、学ぶことを楽しんでいる授業 ・子どもが友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる感じる授業			
・自分の考えを豊かに表現したり、友達の考えのよさを受け止めたりできる児童の育成の目指し、全職員で教育活動の改善に取り組んでいる。 ・児童の学習意欲と学力の定着へとつながるように、教材研究や授業構想を中心に授業改善を進めている。							

IV

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70セ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	学び続ける 授業の創造	★	継続	児童の主体的な学びのへの意欲を高めることで、基礎学力を定着させる。	「子どもの論理」を大切にした授業づくりを行う。 - 児童が自身の学びを自覚する場を設定する。	「学ぶことが面白い」「次の課題が見つかる」「友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」と感じる児童を80%以上にする。(児童アンケート)	授業改善に取組むことで児童アンケートの結果「学ぶことが面白い」85%「次の課題が見つかる」86%「友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」90%であった。よって達成率は109%である。			引き続き、児童が考えたことや伝えたいことを自分の言葉で表現できるようにするために、ペアワークやグループ学習を授業の中で効果的に取り入れる。	授業改善に取組むことで児童アンケートの結果「学ぶことが面白い」85.6%「次の課題が見つかる」87.0%「友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」88%であった。よって達成率は102.2%である。	4	4	4	- 引き続き、児童が考えたことや伝えたいことを自分の言葉で表現できるようにするために、ペアワークやグループ学習の取り組みとともに、振り返りの時間の確保やノート展覧会を実施する。 - 教職員が座席表を活用するなどして、児童の見取りを細やかにを行い、意図的指名やグループ作成等に生かす。 - 教職員同士での授業観察、子どもの学びの姿の交流を充実させ、授業改善や個への指導に生かす。 - 講師を招聘した研修を継続し、指導を授業改善に生かす。
1	心と体の健康	★	新規	児童の生活習慣の見直しと体力の向上を図る。	- 読書時間の期間に合わせて、生活振り返り習慣を設ける。 - 生活振り返り習慣には、生活リズムカードを活用して、自分の生活を振り返る。 - 学級懇談会等で、生活習慣について家庭に呼び掛ける。	児童アンケートで「メディア2時間以内、家庭学習1時間以上できた」児童を80%以上にする。	児童アンケート「メディア2時間以内、家庭学習1時間以上できた」児童は、81%であった。よって達成率は101%である。	3	3	2学期も読書時間の期間に合わせて、生活振り返り習慣を設け、家庭学習に読書を入れることで、メディアの時間を減らし、家庭学習を増やすことができるようにする。家庭にも、生活振り返り習慣期間が始まったことを、「すぐー」等と呼び掛ける。	児童アンケート「メディア2時間以内、家庭学習1時間以上できた」児童は、77.7%であった。よって立つ成率は97%である。	3	3	4	引き続き、読書時間の期間に合わせて、生活振り返り習慣を設けることで、児童が生活を振り返る意識をもたせる。メディアの時間が減った時に出来ることなどを提案することなど生活習慣を振り返ることについて呼び掛ける。

				児童の自己肯定感を向上させる。 【思考・判断・表現】【自立・共生】	・目標設定をし、達成に向けて取り組み、達成度を上げることで、自己肯定感を上げていく。	・「目標に向かってチャレンジできた」と感じる児童を80%以上にする。(児童アンケート)	・児童アンケート「目標に向かってチャレンジできた」と感じる児童は、93%であった。よって達成率は116%である。	3	3	・学校行事を兼ねて、自分の目標を設定する。学校行事では、「目標に向かってチャレンジできた。目標が達成できた。」と感じられるように本番の姿をイメージさせ、やり切らせられるように辛抱強く指導や声掛けをする。	・児童アンケート「目標に向かってチャレンジできた」と感じる児童は、92.3%であった。よって達成率は115%である。	4	4	4	・学校行事や生活の中で、自分の目標を設定する。目標に向けて振り返るとともに、目標達成に向けてチャレンジすることができるよう声掛けをする。
1	特色ある教育活動	★	新規	社会に開かれた教育課程を実現する。 児童の心と行動力を育成するために、異学年での教育活動を工夫する。	・地域の「人・もの・こと」を活用した授業計画を位置づける。 ・児童が6年生を中心に、異学年で掃除や学校行事を行うことができるよう位置づける。	・授業のねらい、児童に付けたい力を明確にして、ゲストティーチャーと共有し取り組むことができたとする教職員を70%以上にする。(教職員アンケート) ・「縦割りの班で他の学年と力を合わせて掃除している」と実感できた児童を85%以上にする。(児童アンケート)	・授業のねらい、児童に付けたい力を明確にして、ゲストティーチャーと共有し取り組むことができたとする教職員が81.8%であった。よって達成率は117%である。 ・児童アンケート「6チーム掃除で、他の学年に人と協力しながらしている。」を実感できたとする児童は、98%であった。よって達成率は115%である。美化委員会が行ったお掃除ビンゴも異学年と協力して行うきっかけとなり、良い取組であった。	3	3	・年間の授業計画に見通しをもち、ゲストティーチャーと計画的に連携を行っていく。連携の時間を十分に取る。 ・引き続き、縦割りの班掃除を続行すること、児童会と連携し、新たに異学年交流ができる場を設定する。	・授業のねらい、児童に付けたい力を明確にして、ゲストティーチャーと共有し取り組むことができたとする教職員が100%であった。よって達成率は142%である。 ・児童アンケート「6チーム掃除で、他の学年に人と協力しながらしている。」を実感できたとする児童は、97.8%であった。よって達成率は115%である。	4	4	4	・年間の授業計画の中にゲストティーチャーとの連携を位置づけていく。また、授業のねらいや児童に付けたい力を明確にするために、連携をとっていく。 ・引き続き、縦割りの班掃除を行うことで、他学年と交流し、声を掛け合う機会を設ける。
5	全ての職員が働きやすい学校づくり		見直し	教職員を笑顔や元気にするために、働き方改革を推進させる。	・週一回学年会に時間を設け、学年会で授業や行事のことについて話し合う場を設ける。 ・業務改善委員会にて、業務の見直しを行う。	・学年団で児童のことや行事について交流する時間を設定し「見通しを持って仕事できた」と感じる教職員を85%以上にする。(教職員アンケート) ・児童と向かい合う時間が確保できている職員を85%以上にする。(教職員アンケート)	・週一回、教材研究の日を設定することで、放課後の時間に職員が話し合う時間を設けることで「見通しを持って仕事できた」と感じる職員は、91.6%であった。よって達成率は107%である。 ・業務改善委員会を開き、業務の見直しを行うことはできたが、児童と向き合う時間が確保できていると感じる職員は、45%であった。よって達成率は、53%である。	3	3	・引き続き、週一回放課後の時間確保を行っていく。また、教職員が見通しをもって業務ができるように、ホワイトボードに予定を書き込んで共有していく。 ・業務改善委員会での改善点を全職員に知らせ、共有することで業務の見直しを行い、児童と向き合う時間の確保に努める。	・教職員アンケートの結果「見通しをもって仕事できた」と感じる職員は100%である。よって達成率は117%であった。週一回教材研究の時間を確保したり、ホワイトボードを活用したりすることで、職員が仕事に見通しをもつことができた。 ・月1回の業務改善委員会において、改善点を共有することで、「児童と向き合う時間の時間が確保できている」と感じる教職員は、87%である。よって、達成率は、97%であった。計画的に、行事の見直しをおこない、共有できた。	3	3	4	・教材研究の時間の確保することで、職員同士が児童のことや行事について交流しやすくし、働きやすい職場にしていける。 ・引き続き、月1回の業務改善委員会を開くことで、業務の見直しを行っていく、働き方改革を推進させ、児童と向き合う時間の確保に努める。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。